

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和6年度分)

< 県の評価等 >

施設所管部名

地域連携・交通部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県立熊野古道センター(尾鷲市大字向井字村島12番4)
指定管理者の名称等	特定非営利活動法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク 理事長 林 伸行(尾鷲市野地町12番27号)
指定の期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1)センターの事業の実施に関する業務 2)センターの利用許可等に関する業務 3)センターの利用に係る料金の収受に関する業務 4)センター施設等の維持管理及び修繕に関する業務 5)センターの管理運営上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R5	R6	R5	R6	
1 管理業務の実施状況	B	B			熊野古道伊勢路及びその周辺地域に関する情報発信や交流の拠点として、世界遺産登録20周年という節目の年を生かし、東紀州地域の歴史、自然、文化等の地域資源を活用した様々な企画展や体験学習、講座・講演会、地域内外との交流イベント等を実施している。 来館者が快適な環境で利用できるように日々の巡回や定期点検等を実施するとともに、省エネ・省資源等の環境負荷低減策にも取り組むなど、施設の維持管理を適切に行っている。 8月に発表された南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)の際も、来場者や来場予定者の安全等を確保するため、迅速に臨時休館にするなど危機管理マニュアルに基づいた適切な対応をとっている。
2 施設の利用状況	B	B	+	+	年間来場者数は137,689人(令和5年度比26,119人増)で目標を達成した。(目標達成率119.7%)また、施設稼働率は69.3%で令和5年度よりも微減(令和5年度比0.4%減)したものの、目標を大幅に上回った。(目標達成率138.6%)
3 成果目標及びその実績	B	B		+	成果目標8項目全てにおいて目標を達成している。特に地域の歴史・文化に関する情報収集・集積の成果発信については、熊野古道世界遺産登録20周年の機会を活用し、東紀州地域内では目標(10回)を大きく上回る29回もの企画展等を開催し、熊野古道伊勢路の魅力をも十二分に発信したといえる。

※「評価の項目」の県の評価

「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。  
「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。  
「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>1 成果目標に対する達成度 成果目標8項目全てにおいて目標を達成した。</p> <p>2 残されている課題 県内の東紀州地域以外の地域や県外に対し、熊野古道センターの存在や活動内容等をPRし、認知度をさらに高め、熊野古道センターへの来場や熊野古道伊勢路への来訪をより一層促す必要がある。 また、熊野古道伊勢路の価値を継承していくために、行政をはじめとした関係機関と連携を図りながら、新たな熊野古道伊勢路ファンやリピーターを獲得し、来場者数の増加につなげる取組を進める必要がある。</p> <p>3 その他 (1) 利用者ニーズの把握及び事業等への反映 アンケート等により利用者ニーズの把握に努め、運営に生かす仕組みが機能していることから、利用者の満足度は高い数値(98.9%)を維持している。また、関係機関や地域団体と連携することで、企画展や体験学習等の取組をより魅力的なものにしている。 (2) 施設の適正な維持管理の実施 日々の巡回や定期点検を行い、良好な維持管理に努めるとともに、節電と空調機器の適切な使用に継続して取り組んでいる。 (3) 危機管理 南海トラフ地震臨時情報や台風等気象災害に備えるための危機管理体制について、危機管理部長を選任するなど大規模災害時に備えた組織体制を構築している。 また、県と地震発生時の初動対応を確認する危機管理訓練を年1回行うほか、消防署と連携して自主防災訓練等を行い、災害等緊急時における救急救命方法や消火設備の操作方法を確認するなど、職員の対応能力向上を図っており、適切な危機管理を行っている。 (4) 県施策への配慮 障がい者就労施設等からの優先的な調達や男女共同参画社会実現への取組、人権を尊重した取組を行っている。</p> <p>4 総括 成果目標8項目全てにおいて目標を達成した。コロナ禍以降初めて来場者数が目標数を上回り、熊野古道世界遺産登録20周年を記念したイベント等を年間通じ数多く実施したことで、過去最高の来場者数を記録した点は非常に評価できる。 また、現指定管理者は、4期18年間指定管理を担い、積み重ねた経験とそれに裏付けされたノウハウを生かし、熊野古道伊勢路及びその周辺地域の魅力を広く発信するとともに、地域の資源を活用した企画展や体験学習、講座・講演会、地域内外との交流イベント等を実施し、東紀州地域の情報発信や交流拠点としての役割を十分果たしている。その他、小中学校への出前授業等を企画するなどの熊野古道伊勢路の価値の継承にも取り組んでおり、三重県立熊野古道センターの管理者として適切な運営を行い、実績を残していると評価できる。</p>
--------	---

# <指定管理者の評価・報告書(令和6年度分)>

指定管理者の名称: 特定非営利活動法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク

## 1 管理業務の実施状況及び利用状況

### (1) 管理業務の実施状況

#### ①熊野古道センター事業の実施に関する業務

##### 1 情報収集・集積、発信事業

###### (1) 企画展

熊野古道伊勢路やその周辺地域の自然・歴史・文化を取り上げた企画展6回と特別展示室企画展5回の計11回開催した。令和6年度は、熊野古道世界遺産登録20周年の節目にあたり、江戸時代の旅人が記した道中日記で「西国第一の難所」と表現される「八鬼山越え」を取り上げた企画展をはじめ、伊勢路の文化的景観と沿線に立つ道標や石仏について詳しく解説したロビー展示及び移動展示を行い、伊勢路の魅力を広く情報発信した。

###### (2) 情報誌等の発行

熊野古道センター主催事業や自然と歴史に係る話題に触れた『三重県立熊野古道センターからのてがみ』を4回発行した。熊野古道伊勢路の情報冊子「くまのみち叢書」第5弾として『くまのみちを歩く・五～神と仏の地・熊野』を発行した。

###### (3) ポスター・チラシ等によるPR

企画展をはじめ主催事業を広く広報するためのポスター・チラシを23点作成し、県内外の諸団体・機関に配布し、周知に努めた。

##### 2 交流事業

交流イベントでは、5月にミニ機関車乗車体験や人工壁クライミング体験といった家族連れで楽しめるイベント「ゴールデンウィークドリムフェスタ」を開催した。11月には「熊野古道センターをきれいに行っている仲間たちの作品展・パネル展」「おわせ海・山ツーデーウォーク」を尾鷲市などとともに開催した。2月には熊野古道音楽祭として「ひのきが奏でるハーモニー～京フィルと夢のステージ～」を開催するなど、計146回の事業を行い10,267人の参加者を集めた。

体験学習では、地域内外の小・中学生に対して尾鷲ヒノキを活用したもの作り体験、毎週日曜日には「日曜わくわくものづくり体験」、三重県立相可高等学校の先生と生徒に学ぶ「料理教室」、地域の自然の営みについて学ぶ「熊野古道自然学校」など計115回の事業を行い1,429名の参加者を集めた。

講座・講演会では「新熊野学講座」「山歩き講座」、くずし字で綴られた古文書を解説する「古文書からひも解く地域の暮らし」など計31回の事業を行い634人の参加者を集めた。

#### ②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

##### 1 施設及び設備の維持管理

職員による日常点検及び定期点検を実施し、異常があれば早急に対処した。専門知識・技術を要する設備に関しては外部業者に委託し、保守管理を行った。清掃業務については、平日は障がい者支援多機能事業所、土・日・祝日はシルバー人材センターに委託し、適正に維持管理した。歴史資料の適正な維持保全のために、研究収蔵棟のくん蒸を実施した。建築基準法に基づき建築物及び建築設備の定期点検を実施した。要改善の指摘を受けた箇所については、早急に改善を図るよう努めた。

##### 2 施設及び設備の修繕

体験学習室の給水設備に不具合が生じたため、専門業者に発注し、修繕を行った。空調設備に関しては、冷暖房に不具合が発生したため、専門業者に発注し、修繕を行った。

##### 3 今後対処する必要がある維持修繕

空調機器に関しては経年劣化に伴う故障が頻繁に発生している。機器の製造から約20年経過し、まもなく部品の生産が終了することから、今後部品の調達が困難となるため、抜本的な改修が必要である。

#### ③県施策への配慮に関する業務

##### 1 障がい者就労施設等からの優先的な調達

熊野古道センターでは、障がい者支援多機能事業所「ゆめ向井工房」に清掃業務を委託し、通所者が「やりがい」と「責任」をもって働き、社会への自立をめざす一助となるよう支援した。

##### 2 持続可能な循環型社会の創造に向けた取組

脱炭素・温室効果ガス削減に向けた取組として、サービスを低下させない範囲で徹底した節電と空調機器の適切な使用を職員一丸となって取り組んだ。また、一部LED照明を導入するなど、環境に配慮した取組を進めた。

##### 3 男女共同参画社会実現への取組

熊野古道センターに勤務する職員12名の内、半数以上となる8名の女性を雇用し、2つある課の指導的地位に女性を登用するなど女性が輝く職場の実現に取り組んだ。

#### ④情報公開・個人情報保護に関する業務

##### 1 情報公開に関する業務

三重県立熊野古道センターに関する情報公開実施要領に基づき対応した。令和6年度は開示請求はなかった。

##### 2 個人情報保護に関する業務

三重県個人情報の保護に関する法律施行条例を遵守するとともに、個人情報保護規定に基づき、個人情報を慎重にかつ適切に扱った。

#### ⑤その他の業務

該当なし

(2) 施設の利用状況		
施設名	利用件数	利用人数
企画展示室	—	—
映像ホール	32	600
会議室	78	251
和室	43	214
体験学習室	68	435
大ホール	239	14,073
小ホール	105	2,619

## 2 利用料金の収入の実績

施設の利用率にかかる収入額は、630,075円で、利用率の減免については、申請のあった13件ですべて承認した。

## 3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R5	R6		R5	R6
指定管理料	69,833,000	77,100,000	事業費	5,907,496	6,912,169
利用料金収入	551,215	630,075	管理費	63,966,681	70,673,255
その他の収入	665,294	2,364,123	その他の支出	0	0
合計 (a)	71,049,509	80,094,198	合計 (b)	69,874,177	77,585,424
収支差額 (a)-(b)	1,175,332	2,508,774			

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	40,670
---------	--------

## 4 成果目標とその実績

成果目標及び実績	項目	目標	実績	達成率(%)
	1 施設稼働率(%)	50	69.3	138.6
2 来場者数(人)	115,000	137,689	119.7	
3 地域の歴史・文化に関する情報収集・集積の成果発信				
1)東紀州地域内での開催(回)	10	29	290.0	
2)東紀州地域外での開催(回)	2	4	200.0	
3)県外での開催(回)	1	1	100.0	
4 国内外の世界遺産登録地等との連携事業(回)	2	3	150.0	
5 学校連携事業(校)	25	25	100.0	
6 利用者の満足度(%)	95.0	98.9	104.1	
今後の取組方針	※施設稼働率算出式＝利用日数/開館日数×100 (企画展示室、映像ホール、会議室、和室、体験学習室、大ホール、小ホールが利用対象。 内部打ち合わせ、映像ホール定時上映利用を除く) ※来場者数は、センター以外の会場で実施した事業の参加者を含む。 地域の歴史・文化に関する情報収集・集積の成果発信について、三重の魅力発信と交流の場である『三重テラス』で実施したい。熊野古道伊勢路に関する情報を首都圏で発信し、「道の世界遺産」の魅力や文化的景観を多くの人に伝えたい。国内外の世界遺産登録地との連携事業については、和歌山県の田辺市や新宮市、奈良県吉野郡の各町村といった行政と連携し、熊野古道伊勢路やその周辺の自然・歴史・文化に関する情報の発信に取り組みたい。			

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R5	R6	
1 管理業務の実施状況	B	B	令和6年度は、熊野古道世界遺産登録20周年の節目の年にあたり、記念企画展をはじめ、伊勢路の魅力を伝える情報発信事業や記念交流イベント等、当初予定していた事業を概ね遂行できた。8月には南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が運営後初めて発表され、7日間の臨時休館とした。防災に対する意識が高まったことと災害が発生した時に円滑な対応をとる必要があることなどを再確認できた。
2 施設の利用状況	B	B	年間来場者数は137,689人(目標値115,000人)で目標を達成した。貸館については、利用者は18,192人(令和5年度比164.6%)と令和5年度に比べ7,137人増加し、稼働率は69.3%(目標値50.0%)と、目標を達成した。旅行会社等が手配する大型バス乗入れによる団体客の入場者が新型コロナウイルス感染症が流行する前の水準に戻っていない。
3 成果目標及びその実績	B	B	来場者数に関しては、熊野古道世界遺産登録20年の節目の年で、熊野古道伊勢路に係る情報発信事業について、熊野古道センターをはじめ、地域内外の様々な施設で移動展示を行った結果、多くの入場者を得ることが出来た。地域の歴史・文化に関する情報収集及び集積の成果発信について、予定していた和歌山県新宮市の施設を予約できなかったことにより、県外に対しては伊勢路の魅力を1回しか発信することができなかった。

※評価の項目「1」の評価 : 「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。  
 「B」→ 業務計画を順調に実施している。  
 「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。  
 「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価 : 「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。  
 「B」→ 当初の目標を達成している。  
 「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。  
 「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<p>1 上記の評価に至った根拠・理由</p> <p>(1)成果目標に対する達成度              指定管理の5年目にあたり、基本協定書に基づき、管理業務及び事業を行った。成果目標8項目の全てで目標を達成した。</p> <p>(2)残されている課題              熊野古道の価値を次世代へと伝えるための取組として、小・中学生を対象とした学習会を地域内外の学校と連携を図りながら、より一層積極的に実施したい。また、地域内外の行政及び諸団体・機関と連携を図りながら、熊野古道に係る情報発信や交流事業等を積極的に実施することにより、熊野古道の来訪者やリピーターを増やし、地域の活性化に寄与するよう引き続き努める。</p> <p>(3)翌年度に取り組むべき成果目標の設定              令和6年度同様、令和7年度も全ての項目で目標を達成できるよう努める。</p> <p>2 その他の評価</p> <p>(1)県民の平等利用の確保              「公の施設」の管理運営にあたり、公共性・公益性の確保という大きな責任を有することを常に意識し、適正に管理・運営を行った。</p> <p>(2)施設の適正な維持管理の実施              標準耐用年数が経過している設備がある中で、専門的な知識や技術の要する設備は専門業者に発注し、適正に管理した。突発的な故障が発生した場合は、職員が対応できる時は、早急に処置を講じ、対応できない場合は、速やかに専門業者に発注し、適正な維持管理に努めた。</p> <p>(3)県民ニーズの把握(アンケート調査結果)及びその後の事業等への反映              企画展などの情報発信事業、体験学習などの交流イベント等において、来場者・参加者に対するアンケート調査を行い、指摘については真摯に受け止め即改善するよう努めるとともに、その後の展示や事業等へ反映した。</p> <p>(4)県民サービス向上の成果              誰もが安心・安全に滞在していただくよう職員一丸となってホスピタリティの向上に努めた。「こんにちは」の挨拶のお出迎えから「ありがとうございました」の見送りまで、おもてなしの心を忘れず接遇した。</p> <p>(5)コスト削減の取組              情報発信事業に係るチラシ配布先を見直したことによる広告費や郵送料の削減、不要な照明の消灯による電気代の削減、スチレンボード(ハレパネ)による展示形態を、フレーム付きパネルに変更するなど、展示に係る消耗品の見直しによる経費削減を実施した。</p> <p>(6)危機管理体制の確保              南海トラフ地震臨時情報や台風等気象災害に備えるための危機管理体制については、危機管理部長の選任など管理職が主体となって組織体制を構築した。また、リスクを想定した災害時の対応訓練など、三重県及び消防と連携した訓練を実施し、さらに日常の備えを確保するよう徹底した。</p> <p>(7)業務執行体制の整備              成果目標を達成するために、職員一人ひとりの業務の分担や役割、責任を明確にし、組織を効率的に運営できるよう指揮命令系統を整え、報告・連絡・相談を徹底し、組織全体が適正に機能するよう努めた。</p>
--------	--